

授業者、遠隔システムの状況

鹿嶋市立鹿島小学校（配信校）

専門人材 石塚 有美 先生（英語科教諭）

- 本市勤務4年目
- 特別免許状、スペシャリスト教員



ディスプレイ①



PC①(資料提示用)

webカメラ、マイク



PC②(受信校教室表示用)



鹿嶋市立鹿野中学校第2学年（受信校）

- 受信校3年目
- A組11名、B組9名、C組6名

額賀 翔太 先生（体育科講師）

遠隔教育特例校制度の活用



アドバンスクラス



スタンダードクラス

ディスプレイ①（資料提示用）



ディスプレイ②
(配信校教師表示用)

配信校の授業者と進度や評価などについて打合せを実施。

原 聡美 先生（英語科講師）



WindowsPC
Google Meet
Chromebook
G Suite for Education



授業の計画 中学校第2学年 外国語（英語）単元名 Unit 5 Universal Design

時	学習内容	形態		遠隔授業における工夫や課題、解決策 (1人1台の端末の利活用も含む。使用OS: Windows)
		対面	遠隔	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニおにぎりの開け方をペアで考え説明する。 ・学習課題を設定する。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ○「Google Jamboard」を使って、ユニバーサルデザイン製品のクイズを行い、身近に多くのユニバーサルデザイン製品があることに気付くことができた。
2-4	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるユニバーサルデザインの例を共有する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ○「Google document」を使って、振り返りを実施した。発表の準備段階から振り返りを記録していくことができ、生徒自身が次の課題を明確に把握することができた。また指導者側は生徒の振り返りを参考に、授業内容を修正していくことができた。
5-6	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する製品を選び、発表内容をまとめる。 ・中間指導をもとに、自分の表現について再考する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ○「Flipgrid」を使って、自分の発表を録画したり、他の生徒の動画を見たりして、自ら課題を見つけ、聞き手に分かりやすい発表をすることができた。
7-8	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者に発表し、リハーサルを行う。 ・リハーサル以外は生徒同士で発表し、「発表のポイント」をもとにしながらアドバイスし合う。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ○「Zoomのブレイクアウトルーム機能」を使って、生徒がALTと1対1でユニバーサルデザイン製品を紹介することができた。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT（学校外）に日本のユニバーサルデザイン製品について知ってもらうために、製品を分かりやすく紹介する。 		○	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステスト・ペーパーテストを行う。 	○		

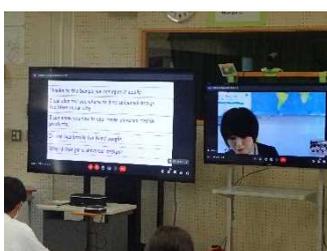
遠隔授業記録



【プレゼンテーションの様子①】
自校外のALT（11人）に1人
ずつプレゼンテーションを行う



【プレゼンテーションの様子②】
各自のプレゼンテーションの後
にはALTとやりとりを行う



【遠隔授業の様子】
2つのディスプレイを使用し、
学習内容の説明や指示を
行う



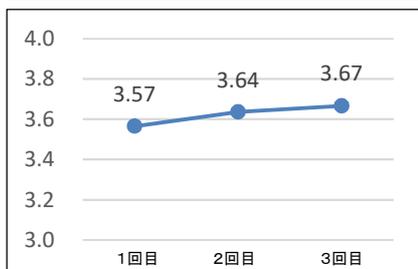
【スタンダードクラスの様子】
基本的にALTとのTTで実施
する

アンケート結果

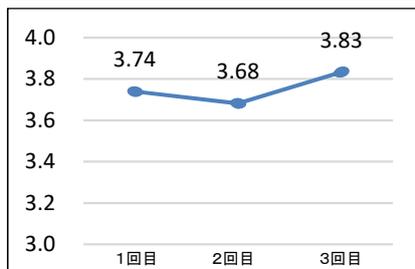
生徒

アンケート回答 1回目（10月上旬、23人）、2回目（11月上旬、24人）、3回目（12月中旬、24人）の平均値推移を表示した。
〔4そう思う 3どちらかといえばそう思う 2どちらかといえばそう思わない 1そう思わない〕

1 学習活動に興味をもって取り組むことができている。



2 友達と一緒に考えたり、話し合ったりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。



3 自分の学習の進度や内容にあったアドバイスを受けることができている。



生徒の振り返り

- ・遠隔の授業になってから今までよりもリアクション（相づち）をするようになったと思う。
- ・先生がそばにいない分、友達同士で助け合いながら学習することができました。
- ・遠隔になって自分や友達と一緒に考えることが多くなった。
- ・遠隔の授業を受けて、友達と話し合ったり考え合ったりする活動が増えて考えが深まったりします。
- ・友達と話し合いやすいことや、一人一人しっかりアドバイスをもらえることがあって、少人数の方がいいと思いました。

アンケートや年間を通しての考察

成果

- 集音マイクやスピーカーの設置で、配信側の教師が生徒のつぶやきを拾い、しっかりと対応したり、中間指導を行ったりすることができた。
- 配信側の教師の説明や発話に対して生徒は注意深く聞き、意欲的に授業に参加することができた。また、配信側の教師へのリアクションや質問なども堂々で行うことができた。
- 配信側の教師の説明や中間指導をもとに、生徒同士で助け合いながら協働的な学習を進めることができた。

課題と対応案

- スタンダードクラスとの評価や進度についての統一や調整が難しい。
→配信側・受信側の教師、スタンダードクラス担当の教師での打ち合わせを行った。
- 次年度にアドバンスクラスとスタンダードクラスの生徒と一緒に授業を行う際に、慣れるまでに時間がかかる。
→①スタンダードクラスの担当者との連携を図り、共通の課題や活動を設定する。
②アドバンスとスタンダードの生徒のペアを意図的に設定し、引き上げを図る。